神奈川県立 足柄ふれあいの村

自然のたより6月

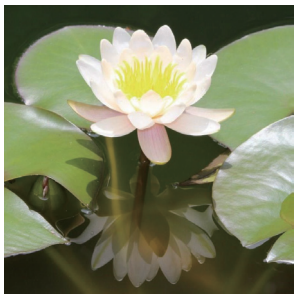
＜赤ちゃんからお年寄りまで、みんなが先生です！＞

赤ちゃんカマキリ

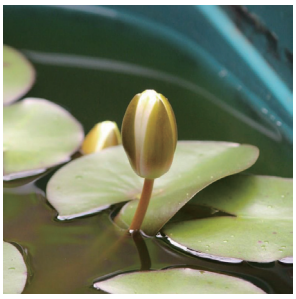
雨が似合うといわれる赤や青のアジサイ。アジサイは土壌の酸性度によって花の色が変わり、一般に「酸性なら青、アルカリ性ならば赤」になるといわれています。日本の土壌はやや酸性のため、青や紫のアジサイが多く見られます。色が変わることから「七変化」「八仙花」とも呼ばれることがあります。

ふれあいの村近くの大雄山最乗寺の山道に咲く見事なアジサイを、この梅雨の時期ぜひ訪ねてみてください。

今、ふれあいの村では・・・



スイレン



スイレン（夕方）

ホオノキの花

エゴノキの花とクマバチ

ムラサキカタバミ

キ セ キ レ イ

キビタキ

黄緑色だった木々が、徐々に色濃くなってきました。森も夏に向けての準備をしているようです◆ふれあいの村では小田原メダカの飼育をしているのですが、今年はその水槽のスイレンが沢山の花を咲かせました。日中咲いていたスイレンの花を夕方に観察すると、すべての花が閉じています。スイレンの花は開いたり閉じたりを約３日間くり返します。開いている時間は天候や陽当たりで変わるそうです。スイレンの面白い習性を見ることができました◆ホオノキの花が咲きました。ふれあいの村にはホオノキが数本あるのですが、花は大きな葉の上に咲くのでなかなか見ることができません。見える角度を探し、やっとの思いで撮ることに成功しました◆事務所で作業をしていると、鳥たちのステキな声が聞こえてきます。「どの鳥だろう？」と予想することは一つの楽しみになりました。

ふれあいの村の仲間たち

ふれあい広場でくらしている金太郎と仲間たち。きょうもどこかへいくようです。村をあるいていると、あしもとでなにかがにょろにょろとうごいています。「あっ、ヘビだ！」とみんなはおどろきました。すると、「大丈夫、なにもしませんよ」とヘビのほうからはなしかけてきました。「わたしはヤマカガシというヘビで、名はヤマシタカガシ。以後、お見知りおきを」とじこしょうかいしてくれました。「わぁいいヘビさんだね」とみんなはかんしんしました。カガシさんとなかよくなり観察させてもらいました。カガシさんの体はオレンジと黒が色あざやかです。すると、カガシさんが「じつはなやみごとがあるんだ」といい、みんなは「なんでもきくよ！」とそうだんにのりました。「わたしたちヘビは、わるくてきけんないきものだとおもわれているでしょ。でも、ヘビにとっても大きいどうぶつや人間はこわくてきけんなんだ。だからだいたいのヘビはにげていく。こうげきをされなければ、こっちからこうげきすることはない。だからわるいものと決めつけずそっとしておいてほしいんだ。」といいました。金太郎たちは「さっきはヘビってだけでおどろいてごめんなさい。これからはわるいやつだと思わずそっとしておくね。」とカガシさんと約束しておわかれしました。

みんなもヘビはわるくてきけんなやつだと決めつけず、出会ってもこうげきしたりちょっかいをださずそっとしておいてあげましょう。

ヤマカガシ
※奥歯と首に毒があります

★フィールドワーク★

野外を探検・調査・観察することを
フィールドワークといいます。

アゲハの仲間たち

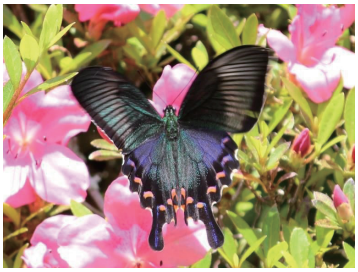
ナミアゲハの幼虫

ジャコウアゲハの卵

ツツジやエゴノキなどの花が満開を迎えました。その花に誘われて、沢山のハチやチョウが訪れています。その中でもアゲハの仲間をよく見かけます◆ナミアゲハやキアゲハは明るい色できれいですが、黒を基調としたアゲハも魅力的です。裏側に赤い斑点があるジャコウアゲハ。水色の筋が光るアオスジアゲハ。表が青紫に輝くカラスアゲハ。黒の中に白っぽい黄色の紋があるモンキアゲハなど、それぞれ個性豊かで名前の由来になっていることもあるので調べてみると面白いです◆さらに花ではなく葉に注目してみると、きれいなチョウたちの卵や、幼虫も観察することができます◆ふれあいの村に柑橘系の木があるのですが、葉が食べられていることに気づきました。その者の正体はナミアゲハの幼虫です。まだ若齢幼虫ですが、すぐに大きくなっていくでしょう。そんな勢いで葉っぱを食べていました。きれいな成虫となって村の中を舞ってくれることが待ち遠しいです◆村の至る所に生えているウマノスズクサ。この時期、この草に卵を産みに来るのがジャコウアゲハです。葉の裏に卵を産むので慎重にめくってみると、ありました。オレンジ色の丸い形をした、いいえ、よく見ると玉ねぎのように一部分が出っ張っていることが確認できます。葉をめくって観察すると落ちてしまいそうになるので、手鏡を使って上手く裏側を映して観察することをお勧めします◆大きさや飛び方、羽の模様、卵を産む場所の違いなど、アゲハの仲間も観察ポイントがいっぱいです。

ジャコウアゲハ

アオスジアゲハ



カラスアゲハ

モンキアゲハ

むささびの家

村を歩いていると、落ちているクヌギの葉に何者かの食痕があることに気づきました。まるで折りたたんで食べたかのように左右対称になっています。これはムササビの仕業です。ふくろう村付近に「むささびの家」を設置しているので見にいくと、そこには顔を出したムササビの姿が。じーっと一点を見つめていますが、何を考えているのでしょうか。大きなクリクリとした目とピンと張った耳がとてもキュートです。後日再び見にいくと、今度は飛び出しそうな勢いで乗り出しています。（写真右下）よく見るとなんだか眠そうです。前に観察したときは午前中だったのですがこの日は午後でした。午後に眠くなるのはとても共感できますが、そのまま落っこちないか心配です。とは言うものの、ムササビは夜行性なので昼は寝ているはず。う～ん、なぜ起きている。もしかすると、サービス精神が旺盛なのかもしれません。なにはともあれ、凛々しい顔、眠たそうな顔といった愛らしい姿を見せてくれたふれあいの村のムササビでした。